

## 新疆を通過するナベコウを衛星追跡する

馬 鳴

中国化学院新疆生態と地理研究所

2002-2003年の間、ヨーロッパ、アジア、複数の地で6羽のナベコウに衛星追跡発信機(PTT and VHF transmitter)を装着した。この研究はチェコスロバキア科学院の技術指導により、1995年から開始されたナベコウの“ヨーロッパ-アフリカ”間の渡りを衛星追跡する一環として、2002年4月、チェコテレビ局の資金と報道全体の援助により“中部アジア追尾”計画が立てられ、彼らがどのようにして中国を通過し、ヒマラヤを越えて、インドのどの地方へ渡るのか?を追跡することとなった。2003年4月から6月にかけて準備され、7月の初めに鳥類学者によりシベリアのアルタイ山地域でナベコウの探索と捕獲が始まった。このとき泰加林区は雨期で、作業員は雲のように舞う蚊の大群の試練を受けた。彼らは嚴重に体全体を包み、蚊よけの網を頭から被り、テロ集団のような姿で、叶尼塞河、鄂華河、額爾齊斯河の間、中国とモンゴルの国境近くを縫うように往来し、20日近くも苦難努力の末7月17~21日、3羽のナベコウを捕獲し、背中に約100gのPTT衛星発信機と短距離無線発信機を装着することができた。その後、採集した血液のDNA鑑定から雄2、雌1であることがわかり、皮特(♂)、羅馬(♂)と凱特林娜(♀)と命名した。

担当したチェコの科学者がプラハへ帰国後、人々に感動をもたらす動きが始まった。雌のナベコウ、凱特林娜がまず移動をはじめ、1000km程飛んで、8月19日、新疆の艾比湖地区に到着した。9月4~7日、皮特と羅馬も前後して鄂華河を離れ、毎日200kmほどを飛んで、直接カザフスタンへ入った。特に体力があると見られる雄の羅馬は、1日565kmを飛び、1993年3月、サハラ砂漠を1日488kmを飛とんだナベコウの記録を破った。この時の凱特林娜は天山山脈の伊犁河と伊賽克湖の間を難行しており、彼女は艾比湖に半月近くも逗留していた。

9月中旬から10月はじめは中央アジア山地は気候が穏やかとなる。皮特と羅馬はカラクム砂漠とキジルクム砂漠を徘徊していた。カザフスタン、キルギスタン、ウズベクスタン、トルクメニスタン、アフガニスタン、パキスタンなど、何処に居たのか?アフガン戦争、荒廃、干ばつと砂あらし、彼らは死線をさまよっていたのだろうか。9月末、筆者は新疆の阿拉峙の調査を行ったとき強風(12級)が吹き、艾比湖は波濤に荒れ狂った。万にもなろうという、多数のツクシガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、コガモなどのカモ類が死亡した。艾比湖は塩湖が広い塩の砂漠に囲まれており、死亡の原因は塩分の砂あらしで中毒したのではないかとされている。

10月2-14日、凱特林娜は伊賽克湖から離れ、折り返して現在、新疆阿克蘇附近の塔里木河流域にいる。まさか、新疆南部での越冬を選択したのではないか?この間、中国のツル類研究センターのグループはチェコから提供されたデータを解析し、中国域内の研究と比較し作業は順調に進んでいた(唯一、遺憾なことにチェコへの入国ビザの取得に終始困難をきわめた)。しかし、隣国のアフガンは戦争が続いており、11月、皮特からの通信がアフガンの首都カブール付近で途絶えた(殺されたのではないか)。羅馬もパキスタンへ渡ったが、途中で信号が途切れた。

国際鶴類研究組織の馬鳴(1991-1994)の報告により、ナベコウの少数の個体が、阿克陶で越冬していることが知られているが、氷の山に周囲をとりまかれた環境に、国際的な専門家は、凱特林娜はさらに南へ渡るのではないかと疑っていた。彼女はタクラマカン砂漠辺縁の巴楚(マラルバシ)、莎車(ヤルカンド)周辺で2カ月余もとどまり、その間人々の気をもませた。凱特林娜は初冬寒冷期の叶尔羌河流域で安全に過ごした。実は、彼女は幾度となく崑崙山脈とカラコ

ルムを越えようと試みたがそのつど戻ってしまった。

12月12日、新疆南部の気温が0°ほどに低下した時、凱特林娜は最後に奮起するように飛び出してパミール高原へ向かった。彼女は今回、引き返すことなく、叶尔羌河に沿ってパミール高原の塔什庫爾干地区を経て比較的標高の低い紅其拉甫峠を越えて、群峰並ぶ世界の背屋を迂回して国境越えに成功してカシミール地区へ入った。もし夜間でなく、天候のよい日であるならば、彼女は海拔7546mの慕士塔格峰、7719mの公格尔山を北に、8611mの喬戈里峰(K2峰)を南に見ていたであろう。十数年来塔什庫爾干、布倫口、吉根、阿克陶、叶城、叶尔羌河、莎車、巴楚等の地でしばしばナベコウの行動を観察してきた筆者は、いま、其の渡りの実態を目のあたりにしたのだ。

12月17日午後、Argos Systemはチベット高原の西部に水源を発するインド河沿いにカシミール地区(パキスタン実効支配地区)を400km以上を移動した凱特林娜からの信号を回収し、彼女は順調に気温20℃内外の温暖なインド河流域に達していた。これは2002年、人工衛星によるナベコウの渡りを追跡してきた中で最大の収穫であり、凱特林娜により作られた奇跡といえる。

中国の領域を渡るナベコウの追跡はこれで一段落した。凱特林娜は3カ月の間中国に滞在し、正確な移動時間、経路と途中の宿場などが地図上に画かれ、またとない貴重な資料を手にすることができた。もし順調に協力が得られれば、2003年春、凱特林娜が新疆に帰ってくるまで追跡を継続する考えで、凱特林娜と共に春を待ちながら期待している。

(注；凱特林娜はインド河上流地域で遊牧民に射殺されたとのチェコからの消息があった。2003年7月、他の3羽のナベコウに対する衛星追跡は行われている)。

#### 訳注

\* 地図上で特定できなかった。